

人口減少時代に適

は

目 次

はじめに

第1部 提言の動機および目指すもの 1

(2) まちづくり 3 法と農地法・農振法等の連携運用	26
(3) 自治体間での法運用の連携用	23.7(6)5008197742.42 T

開放的山里生活圏（リバブルビレッジ）の

第 1 部 提言の動機および目指すもの

人口減少下にあるわれわれの社会は 4 つの危機に直面している。

その克服のためには、地域社会の新たな将来像を構想し、その実現に向けて社会経済制度を進化させる

1. 提言の動機 - 人口減少下の地域社会

いる。都市では中心市街地のシャッター街化や駐車場化という形で、農山村では耕作放棄地やブラウンフィールドという形で現れている。

(2) 農山

《図表 1 - 4》集落の状況

全体 全体
998 2良好 機能低下 機能維持 不明 柳ノ 錠拙 up 3 邑
困難



《図表 1 - 6》

日本のインフラストック額と構成

《図表 1 - 7》

建設後 50 年以上経過する社会資本の割合

資料：内閣府「日本の社会資本 2007」

資料：国土交通省「平成 21 年度国土交通白書」

(4) 国

2. 提言の目指すもの - 危機克服策としての地域目標像と社会経済制度の提言

以上の4つの基本的地域の他、それらが複合的に構成するより広れ

【メリハリのある土地利用】

これを要すれば、都市はより一層都市らしさを高め、都市周辺地域はより非都市部らしさ、すなわち田園らしさ、緑野らしさを高める方向へと土地利用にメリハリがある地域づくりを方針として進めたい。

《図表 2 - 6》広域的な将来像

第3部 地域目標像と社会経済制度に関する3つの提言

都市の目標像、都市整備関連法制度の運用改善、マネジメント・センター機能強化の3点について提言する。

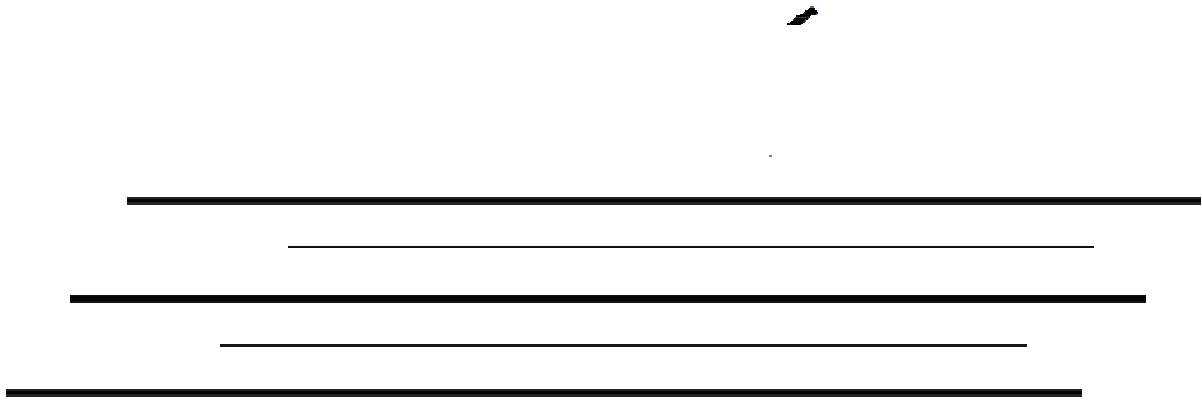
あわせて、これに関連する都市周辺部、中山間地域の目標像および地域づくりに関する意見形をまとめる。マ

スプロール化という問題に対する解決策として「高度人口集積圏（コンパクトシティ）」と称する新しい都市像を提言する。

1. 基本的考え方

コンパクトシティとは、郊外部に拡散しようとする住居や商業施設などを、空洞化した

《図表 3 - 1》高度人口集積圏（コンパクトシティー）のイメージ



《図表 3 - 2》街区規模のコンパクトシティ形成イメージ

【現在の状況】

< 土地利用 >

< 景観 >

【改善された姿】

< 土地利用 >

< 景観 >



流地域の都市住民の負担額を調整する上で効果的と考えられる。

(3) 市町村の地域整備諸計画の評価および利害の調整

第3に期待される機能は、各市町村が策定する地域整備諸計画が互いに整合的であるかどうかの評価および利害の調整である。

力制限する。農地が都市的施設の立地のために転用されることを回避する

- ・ 農地の蚕食的減少を極力回避して大口の農地を確保し、農業経営の効率化、大規模化を進め、農業所得の向上を図る
- ・ 耕作放棄地の再耕地化を推進する
- ・ 食料自給率の向上に貢献する
- ・ 工場・商業施設跡地などを農業用地、雑木林、公園など緑を主体とするものに転換する
- ・ 伝統文化、習慣、風習、祭り等を維持する
- ・ 総じて、地域の社会的 QOL の向上を図る

《図表 3 - 5》緑縁居什& 警 | リ Q+`

中山間地域になく

- 山里の暮らし体験
- 村祭りへの参加
- 就労機会の誘致、伝統産業・地場産業の時代適合化を進める
 - 特産品の開発、ネット販売
 - 郷土料理の提供
- 農林業を振興する
- 通勤・通学のための都市とつなぐ

《図表 3 - 7》 開放的山里生活圏（リバブルビレッジ）のイメージ

（現在）

住むに適しない地区での居住

（目標像）

住むに適しない地区からの撤退。住むに適した地区への凝集

スローライフを求める人々との交流。外部者に開かれたコミュニティー

3 . 進め方

（ 1 ） 交流促進のための仕掛けづくり

都市住民と中山間地域の住民の間で交流が生まれるた

算出できる。これらの情報をもとに NOD は算出可能である。

《図表 3 - 1 1》農業と森林の多面的機能と評価

資料：

あしがき

本提言のねらいは、もちろん4つの危機の克服によって持続可能な地域社会を建設するこ